

知床の窓から見えるもの

2020年4月10日（金曜日）

「北海道長距離バスの旅 横綱対決!! ②」

前回、身勝手に決めた東西横綱。東の横綱「羅臼」のキャッチコピーは「魚の城下町」。そして西の横綱「松前」は、松前城を有する「ガチの城下町」。まさに長距離バス戦国時代。では、いざ出発!!

旅の出発は土曜日。羅臼へは、札幌駅前7時59分発の釧路特急ニュースター号（所要時間5時間6分）で釧路駅前に13時05分着。その後、釧路駅前発13時40分の羅臼バスターミナル行（所要時間3時間35分）に乗り継ぎ、羅臼診療所前17時15分着。釧路～羅臼間は、土日ダイヤが2本。乗り遅れると羅臼到着は翌日お昼です。ちなみに、この路線は日本第2位の長距離路線ですが、路線バスで3時間越えて…。運転席上の運賃表示はカオスです。そんなこんなで、待ち時間を含めると9時間16分の長旅となりました。対する、松前へは、札幌駅前9時10分発の高速はこだて号（所要時間5時間30分）で函館駅前14時40分着。その後、函館駅前15時04分発の松前出張所行（所要時間3時間19分）に乗り継ぎ、松前病院前18時23分着。待ち時間を含めると、9時間13分の長旅となりました。さすが東西横綱対決。その差なんと3分!!僅差で「羅臼」の勝利となりましたが、これはもう同時優勝ですね。

以上の結果から、北海道の長距離バスを考察すると、東西横綱の「羅臼」と「松前」には、僻地医療を支える医療機関が存在します。松前町立松前病院は、医療圏で唯一の入院施設であり、総合診療専門研修施設として高い知名度を誇っています。その礎を築かれた医師が前院長の木村 眞司先生なのですが、その木村先生を師匠とし、総合診療医として僻地医療に尽力されている医師が、知床らうす国民健康保険診療所の木島 真所長なのです。バスの旅で始まったお話も、僻地医療の不思議な縁に繋がるなんて、なにかロマンを感じませんか?長時間揺られないと辿り着けない僻地だからこそ、やりがいのある場所だと思わずにはられません。

真面目な話はさておき、そんなバスの旅ですが、最近の高速バスは乗り心地が良く、Wi-Fi環境も整っているので快適です。車窓からの風景も穏やかで、街の雰囲気やゆっくり感じられます。そして、なによりお財布に優しい。飛行機でひとつ飛びの旅も楽しいですが、たまにはバスを乗り継ぐ、時間を掛けた贅沢な旅をさせてみてはいかがでしょうか?長時間バスに揺られ、最果ての町「羅臼」に到着した時の感動は、ひとしおですよ!!! (いろんな意味で)。帰りは飛行機をオススメしますけどね

以上、北海道春場所、東西横綱対決をお伝えしました。

注) 都市間高速バスは複数の会社が運行しており、発着時刻や所要時間が異なります。また、路線バスは曜日で運行ダイヤが異なるため、実際に乗車する場合は事前にご確認下さい。



知床らうす国民健康保険診療所 待合室